

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577300407		
法人名	社会福祉法人 一仁会		
事業所名	グループホーム天王園		
所在地	山口県周南市大字大河内1109-2		
自己評価作成日	平成29年4月25日	評価結果市町受理日	平成29年11月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成29年5月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①音楽セラピー、押し花、傾聴ボランティア等、地域の方との交流を大切にしている②ボランティアの協力もありほぼ毎月花見等の外出をしている③事業所での3食の食事作りと、個人に合わせた食事形態の提供④委員15名による2か月毎の運営推進会議開催⑤当番制の食事前の挨拶、モップがけ、洗濯物たたみ、食器洗い等、自分の仕事として身につけている⑥年2回(6月・12月)の家族会の開催(12月はクリスマス会を兼ね試食会を実施)⑦医療面は法人の看護師に相談でき、医師の診察も園内でできる⑧同一敷地内に特養、デイサービスがあり演芸などの慰問に参加している。⑨毎月ご家族が利用料の支払いに来られるので状態報告もでき、様子も見てもらえる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者は、地域の幼稚園や小学校の運動会に出かけて競技(宝釣りゲーム等)に参加されている他、事業所に来訪された小学生と七夕飾りづくりをされたり、中学生の福祉体験、高校生の職場体験などで交流されて、ゲームや作品づくりを楽しんでおられます。月1回来訪される音楽セラピー、押し花、歌やゲーム、紙芝居、傾聴、外出支援のボランティアの人たちと長く交流を続けておられ、誕生日に絵手紙が届いたり、一年間の頑張りに対して「元氣証書」を一人ひとりに授与されるなど、利用者は地域の人達とつながりながら暮らしておられます。外部研修の情報を職員に伝えられて、段階に応じて参加できる機会を提供されている他、法人研修に参加後は内部研修での報告や資料での閲覧をされており、全職員が共有できるようにして職員のスキルアップを図られたり、資格取得にも取り組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から一貫して変わることのない理念を、ホーム内の目にとまる場所に掲げており、職員会議時に確認し日々の業務につながるよう努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、事業所内に掲示している。日々の関わりのなかで、理念を確認し、意識付けをして、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	5団体のボランティアの訪問、運動会等の学校行事の参加、演芸の観覧、園内行事へのお誘いをしている。	地域の幼稚園や小学校の運動会で競技(宝釣りゲーム等)に参加している他、事業所に来訪した小学生と七夕飾りをつくって、中庭に飾っている。月1回のボランティア(音楽セラピー、押し花、歌やゲーム、紙芝居や折り紙、外出支援、傾聴)の来訪がある他、月数回の傾聴ボランティア、年1回民生委員による花壇の花植えの協力があり、利用者と交流している。事業所に来訪したフラダンスや琉球太鼓の演奏を楽しんだり、法人施設に訪れた日本舞踊、竹の楽器演奏、健康体操を観覧している。中学生の職場体験や高校生の福祉体験、実習を受け入れている。家族から野菜の差入れがあり、食材として活用しているなど、利用者が地域の人とつながりながら暮らし続けられるように日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方や実習生に認知症の理解と支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	意義を理解し、評価が出たときは勉強会で話し合い改善に取り組んでいる。	内部研修で外部評価の意義を学び、職員に自己評価するための書類を配り、昨年度の自己評価を参考に職員が記入し、管理者と計画作成担当者がまとめている。前回の評価結果を受けて目標達成計画をたて、法人の救急救命法の講習会に2名が参加し、職員会議で復命研修をしたり、内部研修で食中毒やインフルエンザ発生時の対応を学んでいるなど、改善に向けて取り組んでいる。	・評価の意義や項目の理解 ・全職員での取り組み

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で報告している。	会議は2ヶ月に1回開催し、利用者の近況報告、スライドを使用した行事報告、事故・ヒヤリハット報告を行った後意見交換をしている。メンバーからヒヤリハットも事故として考えることが事故防止や家族の安心に繋がるという意見があり、事故防止に取り組んでいる。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員に2名参加していただいております。報告をしたり意見を聞いたりしています。	市の担当者とは、運営推進会議時に情報交換している他、出向いたり、電話でも相談、情報交換を行い協力関係を築いている。地域包括支援センター職員とは、日頃から情報交換するなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠はしていない。「身体拘束に関するマニュアル」を参考にして勉強会で職員の協力を得て身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人研修や内部研修で身体拘束について学び、職員は正しく理解して身体拘束しないケアに取り組んでいる。玄関には施錠しておらず、外出したい人とは一緒に出かけている。スピーチロックに気づいた時には管理者がその場で注意している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で学んでいる。何が虐待にあたるのかを周知徹底し、思い当たる場面に遭遇したらお互いに注意し、即改善する。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム内の勉強会で資料を見ながら研修している。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約書の読み上げでの説明をしている。疑問、不安等あれば理解・納得をしてもらえるまで丁寧に説明している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に家族に説明をしている。苦情に対しては意見箱を設置するなど受付体制ができています。毎月の手紙や面会時にも気づきや要望を伝えやすい環境づくりに努めています。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。意見箱を設置している。面会時、毎月の利用料支払日、運営推進会議時、家族会時(年2回)、電話等で家族から意見や要望を聞いている。年4回の事業所だよりや毎月利用者の様子を書いた手紙を送っており、家族が意見をいいやすい環境づくりに努めている。意見や要望は連絡帳に記載して申し送り時に共有して対応している。家族からの要望で、事業所内に写真付きの職員紹介を掲示している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回のグループホーム内の勉強会のあと職員の意見を聞く時間を設け、意見や提案を話し合うようにしている。	管理者は毎月の職員会議で職員の意見や要望を聞く機会を設けている他、日常業務の中でも聞いている。職員から業務内容の提案や食事形態等の提案があり、運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年就業規則を読み上げ再確認をしている。就業環境の整備は取り組みがなされている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り研修会に参加している。施設内研修にも取り組んでいる。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命研修をし、資料は閲覧できる。今年度の外部研修は7回参加している。月1回の法人研修は、身体拘束や救急救命法等に参加し、職員会議で復命報告し、資料は閲覧できる。月1回の内部研修では、身体拘束の廃止に向けて、介護記録の書き方、看取り、入浴介助などを実施している。新人研修は外部の新人研修受講後に3週間程度管理者や先輩職員について働きながら介護の知識や技術を学んでいる。資格習得の支援もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の運営推進会議に出席しあい交流する機会を持っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人のこれまでの生活歴や病気等を把握したうえで、しっかり傾聴し、寄り添い、職員や他の利用者と馴染み、職員に要望を伝えやすい環境、関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの生活で大変だったこと、困っていたことを聞きとり、グループホームで安心して生活できるよう相談しながら支援していくことを伝えている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員や他の利用者に対して、どのような動き、反応を示されるかを見て、安心して暮らしていけるよう、まずは職員が寄り添い、必要な支援を見分ける。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じ目線で世間話をしたり一緒に家事をしたりしている。能力に応じた手伝いをしてもらっている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠慮なく面会にきてもらうよう伝えている。面会に来られた時は歓迎し部屋でゆっくり話ができるよう配慮している。気づきや要望があればいつでも伝えてほしいと話している。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	花見等の外出支援をしている。同じ敷地内のデイサービス利用者が面会に来られることがある。また日頃の会話の中でも思い出を引き出せるような会話に努める。	家族の面会、孫、親戚の人、近所の人、法人内のデイサービス利用の友人の来訪がある他、電話や手紙での交流を支援している。利用者の誕生日には音楽セラピーのボランティアからお祝いの絵手紙が届いている。家族が来訪してカットしたり、家族の協力を得て馴染みの美容院の利用、自宅への外出や外拍、墓参りや法事への出席など馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席の調整、レクリエーションへの参加、孤立しやすい利用者への声掛けや一緒に作業できる環境作りに努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを伝えることができる利用者は日ごろの会話やかかわりの中で思いを汲み取るようにしている。困難な場合は家族や職員と話し合い本人本位に検討している。	入居時のアセスメントシートを活用している他、日々の関わりのなかでの利用者の様子、気づき等を生活記録に記録して、思いや意向の把握に努めている。課題に対してのサービス内容を把握しやすいように生活記録の様式を工夫し、実践状況の把握に努めている。困難な場合は家族や職員と話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報、担当ケアマネからの情報を得て、本人にも話を聞きながら把握している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引き継ぎ簿、日誌、申し送りで現状の把握をしている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の望む暮らし、要望を取り入れて介護計画を作成している。ひとりひとりの目標を職員で共有して支援している。モニタリングも行いケアプランに反映させるようにしている。	本人や家族の意向を聞き、主治医や法人看護師の意見を参考にして職員会議で話し合い、管理者、計画作成担当者が中心に介護計画を作成している。3ヶ月ごとにモニタリングを実施し、1年ごとに計画の見直しを行っている。利用者の状態に変化があった場合は、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	項目ごとに記録を記入し、目標に沿った支援ができたか、課題があるかがわかりやすくまとめるようにしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況により、柔軟に対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源であるボランティアを活用している。また小学校の運動会にも参加している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を利用している。家族の希望があればいつでも対応できる。	本人、家族の同意を得て協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の訪問診療がある。他科受診は家族の協力を得て支援している。受診時の情報は口頭で伝えている。法人看護師が定期的に健康管理をしており、職員の相談を受けて助言している。緊急時には管理者や看護師に伝え、協力医療機関と連携して適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ敷地内の特養の看護師に報告、連絡、相談できる体制ができていて、定期的にも突発の際にも適切な受診や看護を受けることができる。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーがすぐに提出できるよう準備をしている。病院関係者の中で窓口になってくれるワーカーとの連絡を密にしている。入院中はこまめに様子をみにいっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や家族会時に事業所の対応について家族に口頭で説明している。実際に重度化した場合、ホームでの生活が困難になった場合は家族、主治医、看護師、他関係者と話し合い今後の方針を立てている。	重度化や終末期に事業所でできる対応について契約時や家族会時に家族に説明している。実際に重度化した場合は家族の意向を聞き、主治医や看護師、職員と今後の方針について話し合い、方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	事故が発生した場合は全職員がマニュアルに沿って同じ対応をしている。事故が起こった場合、状況や原因、対策を再検討して事故防止に努めている。緊急時は法人の看護師の協力要請を整えている。	事故が発生した場合は、その日の職員で話し合い、報告書に状況や原因、対応策を記録して全職員に回覧し、共有している。毎月の職員会議で再検討して一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。事故発生時に備えて、法人の救急救命法の研修に参加している他、内部研修でインフルエンザ発生時の対応や食中毒、ノロウイルスの対応を学んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を行っている。夜間を想定した訓練も勉強会で行い、避難方法、避難経路は職員全員把握している。地域住民による協力体制も整っている。	消防署の協力を得て、法人全体で通報、消火、避難誘導訓練を行っている他、毎月事業所独自の避難訓練を実施している。うち1回は夜間を想定して、消火器の置き場所を確認したり、毛布を使って避難訓練を実施している。利用者の居室入口には歩行状態を示すマークを貼って、避難誘導時の支援方法を確認している。緊急時の連絡網に地域の人が1名加入している。法人全体として地域との協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各部屋への出入りの際のノックや声掛け。排泄介助、入浴時はドアを閉める。個人的な内容の話は個々にする。不適切な対応は管理者や気づいたものが指摘するようにしている。	職員は、日常業務の中で利用者一人ひとりの人格の尊重と誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応に気づいた時にはそのつど管理者が声かけしている。個人記録の保管にも留意している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団での作業や行動を強要しない。自己決定ができるような選択肢と質問を用意し、思いを伝えられるような声掛けを心掛けている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り本人の体調や思いに沿って1日がすごせるよう心掛けている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や整髪ができない方は支援し清潔を保つ。着替えも本人の意思を尊重しながら季節に合った洋服を提案。2か月に一度の有料料理容を活用している。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昔の料理等好みを聞いて献立に活かしている。誕生日や行事の日には行事食を提供している。野菜の皮むき、テーブル拭き、下膳等できる利用者には手伝ってもらっている。職員も一緒に食事をして家庭的な雰囲気を持てるようにしている。	管理栄養士の資格がある職員が利用者の好みを取り入れて献立を作成し、家族からの差入れの野菜などを使って三食とも事業所でつくっている。利用者は野菜の下ごしらえ、テーブル拭き、お膳拭き、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルを囲んで会話しながら同じものを食べている。季節の行事食(おせち、恵方巻き、ひな祭り、端午の節句、ソーメン流し、クリスマス会)、家族会での昼食会、お寿司やケーキなど利用者の好みを取り入れた誕生日のお祝い膳、花見ドライブでのおやつ、法人の秋祭りでのデザートバイキング、家族の協力を得ての外出など、食事を楽しむことのできる支援を行っている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日3度の食事がバランスよく摂れるよう献立を工夫している。ひとりずつの食べる量や形状を把握している。食事量や水分量は毎日記録に残し共有している。必要に応じては個別に支援している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕は職員介入で口腔ケアをしている。必要に応じては昼食後もケアをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	食事前や活動前等には声掛けをしている。排泄チェック表をつけており、一人ひとりのパターンや間隔を把握し支援している。	排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で把握している。果物、ヨーグルト、食物繊維の多い食品を使用、こまめな水分摂取、毎日の体操で便秘を予防している。それでも改善がみられない場合は主治医と相談。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は日曜日以外いつでも可能だが、基本13時30分から15時30分までを入浴時間に行っている。利用者の体調に合わせて清拭、足浴、シャワー浴で対応。本人の同意を得て入浴をしている。	入浴は、日曜日以外の毎日、13時30分から15時30分までの間可能で、一人ひとりの希望に応じて職員との会話を楽しみながらゆっくりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には時間をずらしたり、声かけの工夫をしている。体調に合わせて清拭やシャワー浴、足浴をしている他、入浴剤や柚子湯で入浴を楽しむ支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッドを清潔に保っている。好きな時間に横になって休むことができる。入眠も本人の希望時間に応じている。室内温度や明るさにも配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理簿を作成しているのでいつでも閲覧ができ確認できる。管理は職員が行い薬が変更した場合も全員把握できるように説明をしている。薬の飲み込みを確認している。変化があればすぐに主治医に相談する。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵、新聞読、テレビ視聴、歌、調理の下ごしらえ、洗濯物たたみ、脳トレ、ゲーム、外出等で楽しい時間を持てるよう支援している。また誕生日や敬老の日等の行事でお祝いの会をしいる。嗜好による個別メニューにも対応している。	テレビ視聴(相撲など)、ラジオ、新聞、習字、ぬり絵、貼り絵、カルタ、トランプ、カードゲーム、輪投げ、玉入れ、歌(童謡、懐メロ)、漢字ドリル、計算ドリル、健康体操、棒体操、タオル体操、季節の行事(七夕飾り、ソーメン流し、クリスマス会、餅つき)、法人の秋祭り、幼稚園児、小・中・高校生との交流、ボランティアの来訪(押し花、音楽セラピー、折り紙、紙芝居、歌、フラダンス、琉球太鼓、傾聴)などの楽しみごとを支援している他、モップかけ、シーツ交換の手伝い、洗濯物干し、洗濯物たたみ、カーテンの開閉、ゴミ袋作り、ゴミ袋の名前書き、食事の挨拶、野菜の下ごしらえ、お盆拭き、テーブル拭き、下膳、食器洗いなど活躍出来る場面づくりを支援し、利用者が張り合いや喜びのある暮らしができるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度は車で外出し季節の花見、敷地内の散歩で外出している。家族の協力を得て墓参り、美容院、一時帰宅等戸外に出る機会を得ている。	周辺の散歩、季節の花見(河津桜、吉野桜、バラ、紅葉、梅など)、幼稚園や小学校の運動会の見学、初詣、ぶどう狩り、八代のツル見学、笠戸島など外出支援のボランティアの協力を得て出かけている他、本人の希望を把握し、家族の協力を得て、自宅への外出や外泊、外食、墓参り、法事への出席、馴染みの美容院の利用など、戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はお金を所持されていない。必要なものがあれば家族に相談し職員が購入している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。電話も要望があればいつでもかけることができる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日の掃除で清潔を保つようにしている。季節感のある飾りや、花を飾ったりしながら季節感を取り入れ温かい雰囲気づくりを心掛けている。加湿器、温湿度計設置。	中庭からの陽ざしが差し込む明るいリビングにはテレビ、電子ピアノ、テーブル、ソファ、花鉢を置き、畳の間には長卓、ソファ、按摩機を置いている。廊下には季節の花を活けた花器が置いてあり、壁面には季節の飾り物、行事の写真、職員の写真が掲示してある。中庭を囲む廊下には長いすを置いて、利用者が気の合う人と過ごせる場所になっている。キッチンからは調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。温度、湿度、換気、音、明るさに配慮して、居心地良く過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつでも自室でゆっくりすることができる。お互いの部屋も行き来できる。ホールには長椅子も置いてあるので、好きな場所で過ごすことができる。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には馴染の品物を持参してもらっている。自室内の配置は本人と家族と相談しながら設置している。	衣装ケース、衣装掛け、タンス、三段棚、イス、置き時計、クッション、アルバム、化粧品など使い慣れた家具や好みのものを持ち込んでいる他、母の日や誕生日プレゼントのフラワーアレンジメント、家族手づくりのカレンダー、ボランティアからの元気証書、職員からの色紙、ぬり絵や押し花などの自分の作品を飾って本人が居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が迷わないよう場所の確認のためにトイレ、風呂と書いてありわかりやすい。また食堂の席、自室の入口にも名前が記されているので自分の居場所として把握している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム天王園

作成日：平成 29 年 11 月 3 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	事故が発生した場合は、マニュアルに添って同じ対応をしている。また月に一度の職員会議で再検討をし事故防止に取り組んでいる。しかし、様々な場面での緊急を要する場合の初期対応が全員身についているとはいえない。	全職員が応急手当、初期対応の実践力を身につける。	①外部研修に参加し最新の正しい緊急時の対応を身につける。 ②月1回実施される職員会議の中で正しい緊急時の対応、応急手当の演習を定期的に行う。	1年
2	4	昨年度より評価の意義を理解し、各自が自己評価をすることができたが、まだ理解できていない項目もある。評価を活かした取り組みは少しずつ進めている。	自己評価、外部評価の内容を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組む。	月1回の職員会議で項目ごとに振り返り、評価の意義を全職員が理解できるよう話し合い深める。優れている項目は続け、工夫が必要な項目は改善策を話し合う。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。